

	<p>第 83 号 発行日 平成 29 年 7 月 15 日 発行所 大分県要約筆記サークル 「陽ざしの会」 発行者 小寺 淑子 事務局 小野 和子 (E-mail:wako51062@yahoo.co.jp) (HP http://hizasi.web.fc2.com)</p>
--	---

平成29年度 新体制スタート

平成 29 年度陽ざしの会定期総会が 4 月 15 日（土）午後 1 時から大分県総合福祉会館で開催され、会員 40 名中出席 21 名委任状 16 名、計 37 名の出席で総会成立となりました。総会の様子をご紹介します。

「ワコちゃん」「ワコちゃん」「ワコちゃん」
お互いの立場を思いやって



「昨年の総会は熊本地震が発生した日、今年はまだ桜が咲いているという印象深い日となりました。」と津田文子会長の挨拶で開会。



県聴覚障害者協会 那須博幸施設長よりご祝辞。「大分県が新しく専門性のある意思疎通支援事業をスタートさせており、専門性のある要約筆記とは何かを議論し基準を作成中」とのお話でした。
県難聴者協会 小倉鉄郎会長からのご祝辞は司会の久保田さんが代読。「陽ざしの会、難聴者協会が関わりを深め協力し、社会に対しロールモデルとなるような取り組みを期待します」



池邊恵子さんの議事進行のもと、会則の改訂（役員の任期の上限明記）や内規の策定などが提案され、異議なく承認されました。



大事な役割を引き継いでくれた新役員のみなさん。「難聴者に寄り添ったコミュニケーション支援と学習会充実を2つの柱として進めたい」と小寺淑子会長より挨拶。（新役員体制は裏面参照）



総会後の専門部会
「どんな企画しようかな」
「みんなが参加してくれるといいな」



来年 2018 年は、陽ざしの会 創立 30 周年を迎えます♪



新役員あいさつ



「要約筆記の何が楽しくて活動を続けているのか、1分間で10項目あげよ」と問われたら…。答が出てきましたか。その中に「サークルの仲間と会えるから」が入っていれば私と同じですね。今年度会長を務めさせていただきます小寺淑子です。会長の役割は人と人を繋ぐこと、陽ざしの会と関係団体を繋ぐことだと思います。会の運営は例会での皆様のご意見で進めていくもの。多くの参加、ご協力をお願いいたします。

会長 小寺淑子

今年度事務局を担当する、小野です。昨年度まで2年間企画部長をさせていただき、楽しい催しを通し、会員の皆さん、他団体の方々とも知り合うことができ、役員を経験し本当に良かったと思っています。今年度は事務局ということで、全会員と連絡をとらせていただくかと。スムーズなサークル運営を心がけつつ、より多くの皆さんと顔の見える関係ができることも期待しています。皆さん、例会、学習会でお会いしましょう。

事務局 小野和子



上側左から河井さん、久保田さん、三重野さん、青木さん
下側左から久松さん、小寺さん、南波さん、小野さん

今回会計をお引き受けしました。玉手箱を開けてみると煙がふわ〜〜と流れ去って中は空☪☪、というのは夢ですが、楽観は許せない状況です。サークルの活動を維持、発展させるために使うところは使う、節約するところは節約する、とメリハリのある運営を目指します。ご協力をお願いします。

会計 河井美恵

2年間広報部長として取り組ませていただき、とても良い経験をさせていただきました。今年度は副会長として陽ざしの会全体を盛り立てることを目標に、皆さん、小寺会長、小野事務局との連携を取りながら陽ざしの会の仲間に関わりたくて例会にしていきたいと思っています。1年間よろしく願いいたします。

副会長 久松久仁子



左から
欧陽さん、
津田さん、
山口さん。一年間
お疲れ様でした。



今年度は研修部長として関わることになりました。よろしくお祈りします。研修部の今年のテーマは『書いて練習しよう!』です。

派遣に行く人も行かない人も、またこれから行こうと思っている人も派遣依頼がきたときに困らないように。そして学習会に参加して、何か一つでも勉強になったと思えるような機会にしたいと思います。

皆様のご参加お待ちしております。

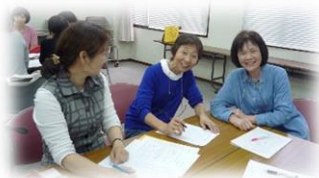
手書き研修部
久保田安紀



各専門部 部長

音声入力、音声認識など技術の進歩はめまぐるしいものがありますが、要約筆記の現場においては人の力が必要とされるのはこれからも変わらないのではないのでしょうか。

今年度はタブレット端末を利用するなど新しい知識のための研修、入力の練習・検証、要約力アップ研修などを計画しています。「こんなこともある」「こんなことをやりたい」などご要望も取り入れていきたいと思っておりますので、いつでもお声をかけてください。一年間宜しくお祈り致します。



パソコン研修部
三重野真由美

活動に参加するようになってから2年目で、広報部を任されることになりました。不安はたくさんありますが、先輩方の想いを引継ぎ、「陽ざしの会に興味を持ってもらい、身近に感じてもらえるような広報誌にしたい」と考えています。

イベントに参加した方へは記事の依頼を、それ以外の方には、配送作業のお手伝いをお願いするなど、皆さんに助けをいただきながら、1年間頑張りたいと思います。ご協力をよろしくお願い致します。



広報部
南波史恵



今年度の企画部行事は、7・9・12月に他団体とのミニ交流会を開催予定です。

詳細は開催月前月にご案内いたしますが、聴覚障がいを持つ方々と更に親交を深めていくきっかけになればと思っております。

会員の皆様にはお忙しいとは思いますが、多くのご参加をお待ちしています。

楽しい交流会を企画すべく部員の皆さんと協力し合っていきますので、1年間よろしくお願い申し上げます。

企画部
青木奈津子



尚、会計監査は、津田文子さん、山口智子さんが就任されました。



要約筆記の勉強部屋 Part14

～筆子の覚書～



今年は天候不順で桜の開花が遅くなったり、春を飛び越して真夏のような暑さが続いたり。情緒ある日本の四季の移ろいを感じる事が少なくなってきました。今年の夏はどうなるのかなあ・・・

さて、前回に引き続き、今回も、「要約筆記認定試験」についての考察をお届けします。2011年度からこの認定試験が始まり、大分は今年で4回目の開催でした。しかし、その受験者数は年々減少しています。



そもそも、なぜ認定試験を受ける必要があるのかなあ？

筆子さんも試験を受けるべきか悩んでいるようですが、今回は認定試験の意義、その成り立ちについて振り返ってみようと思います。

要約筆記者誕生まで

要約筆記が誕生したのは、1960年代。次第にその必要性が認められ、1981年には奉仕員の養成事業、1985年には派遣事業が開始されました。そして、1999年に「要約筆記奉仕員養成カリキュラム」が通達され、全国共通の養成制度が確立されました。

しかし、奉仕員制度には認定の仕組みはなく、聴覚障害者の権利保障としてのコミュニケーション支援という意味では、十分な制度にはなりませんでした。

2000年に第二種社会福祉事業と位置付けられてからは、専門性の高い通訳事業として2つの思想「権利擁護の要約筆記」「通訳としての要約筆記」を掲げて、5つの到達目標を定め、2011年にその目標を達成するために必要な「要約筆記者養成カリキュラム」が作られました。

こうして、コミュニケーション支援事業における派遣者としての「要約筆記者」が誕生したのです。



おさらい！「5つの到達目標」とは・・・

権利擁護のための要約筆記、通訳行為としての要約筆記を実現するために必要なものは何かと考え、定められました。

- (1) 社会福祉の理念を理解していること
- (2) 「通訳」という行為に対する自覚的な理解をしていること
- (3) 要約筆記技術をもって通訳作業を実現できること
- (4) 対人援助にかかわる者としての自己育成ができること
- (5) 聴覚障害者の権利擁護の観点から通訳できること

要約筆記者と要約筆記奉仕員の違い

要約筆記奉仕員は、聴覚障害者の社会参加促進事業に位置付けられ、個人の善意や篤志に重きを置いた「社会福祉に関する活動」でした。

それに対し、要約筆記者は「社会福祉を目的とする事業」に位置付けられた、要約筆記を担う専門職ということになります。





「社会福祉の理念を理解していること」という到達目標から、社会福祉の理念が必須学習項目になったのです。

また、「通訳としての要約筆記」として、話し言葉の意図を受け止めた書き言葉への再構築をするための日本語の学習にも、かなりの時間を確保するようになりました。日本語についての、より多くの知識と運用の高い能力が求められるからです。

奉仕員が「話し手の言葉を生かす」ことを目標の一つとしており、文字数の増加を図るために二人書きの習得に重きを置いているのに対し、「理解と再構築」を確実に行うことを最優先させる要約筆記者は、一人での筆記が主体となって行います。

また、制度上の責務からみた場合、奉仕員は「身につけた技術でそれなりの支援をする人」である「奉仕員制度」で、認定試験合格は前提としていませんが、筆記者は「必要な知識と技術について一定の基準を満たす」ことが求められるため、その専門性の確保のため全国規模の認定試験合格が条件となるのです。

(出典：要約筆記者養成等調査検討事業報告書)

なるほど～💡 要約筆記派遣事業で通訳をするからには、技術の向上、専門性の確保のために講座の受講はもちろんのこと、認定試験を受けて合格する必要があるのね！勉強が大事、って再認識しちゃった。よ～し、来年度の受験に向けて、今から取り組まなくっちゃ！



ぶんご梅

ちよつとダイバーシティブな食卓

欧陽 美果



先日、夫と私の両親と一緒に食事をしたときのこと。

食卓には焼き魚がありました。魚の表の身を食べ終えた夫が一言。

「この魚は裏返しても大丈夫ですか」

私は「ん？」と一瞬考え、「大丈夫だよ」と答えたのですが、やっぱりその質問がひっかかって、後日質問の理由を尋ねてみました。

中国では（夫は中国出身です）料理で出された魚はひっくり返さないまま裏側まで食べる習慣があるのだそうです。理由は魚を裏返すことは、魚を獲る船がひっくり返ることを連想させ、縁起が良くないからとのこと。日本では失礼な行為ではないのかを確認するための質問でした。

また別の日。二人で食事をしていたとき、お腹いっぱいになったけど、残すのはもったいないし料理を作ってくれた夫に失礼だからと、ちよつと無理して食べようと思いました。

そのとき「全部食べなくていいよ。残してくれた方がうれしいから」と夫が一言。

中国では料理を残すことは、食べきれないくらいに料理を出してくれてありがとう、満足していますというメッセージなのだそうです。へえ。

同じ行為でも考え方の違いで正反対のメッセージになることがあるのですね。いろんな場面で違いに驚くことはありますが、ひとつひとつに理由や意味があり、それはそれで納得できるので新しい価値観が得られてワクワクします。

そういうことを考えながら、食いしん坊の私は結局今日も全部食べ切ってしまうのでした。

ぶんご梅は創刊以来続けている会員のエッセーです。





平成29年度 陽ざしの会・活動計画

例会は13時～14時

Ⓜは手書き、Ⓟはパソコン

午前10時～12時／午後14時～16時



月/日	会場	学習会	企画部	広報部
5/20	P スタジオ 手 会議室	Ⓟ (午後) 機材の点検、収納の確認 Ⓜ (午後) 機材の取り扱い、筆記の演習		
6/17	P スタジオ 手 福祉会館	Ⓟ (午前) 前ロールを作ろう&ランチで交流 Ⓜ (午前) 手書き練習① (午後) 機材の点検、整理	7/1 夏季交流会 ビアパーティー	
7/15	P 会議室 手 未定	Ⓟ (午前) 交流会でノートテイク (午後) 前ロールの検証 Ⓜ (午前) 交流会でノートテイク (午後) ノートテイク	(午前) 交流会	第83号 発行
8/19	P スタジオ 手 未定	Ⓟ (午後) 登録研修での反省点、2人入力 Ⓜ (午後) 現場に向けた学習		
9/16	P 会議室 手 未定	Ⓟ (午前) 交流会でノートテイク (午後) 2人入力 iPad Ⓜ (午前) ノートテイク (午後) ノートテイク	(午前) 交流会	
10/21	P 会議室 手 未定	Ⓟ (午後) 予定 iPad、UDトーク訂正の仕方 Ⓜ (午前) 手書き練習② (午後) 現場に向けた練習		
11/18	P 会議室 手 未定	Ⓟ (午後) 派遣現場に向けての実践練習、前ロールなど Ⓜ (午前) 手書き練習③ (午後) 現場に向けた練習		第84号 発行
12/16	P 会議室 手 未定	Ⓟ (午後) 派遣現場の2人入力 Ⓜ (午後) 現場に向けた練習	(午前) 交流会	
1/20	合同 会議室	(午後) 要約筆記者試験対策		
2/17	合同 会議室 手 未定	(午後) 要約筆記者試験対策 (午前) 手書き練習④		
3/17	P 会議室 手 未定	(午後) 総合練習		第85号 発行



《その他》

- ◆2017年度 登録要約筆記者研修会 第1回 7月16日(日) 第2回 12月24日(日)
- ◆2017年度全国統一要約筆記者認定試験 平成30年2月18日(日)
- ◆難聴者協会茶話会、8月以降の開催予定
8月12日、9月10日、10月7日、11月12日、12月9日、2月11日、3月10日

第12回大分県障がい者スポーツ大会

昭和36年、全国に先がけて開催されたのが「大分県身体障害者体育大会」。平成18年からは、身体障がいだけでなく、知的、精神を加えた3障がい統合の「大分県障がい者スポーツ大会」となり今年で12回目を迎えた。

開会式 (5月21日 大銀ドーム 10名参加)

例年、大会シナリオの全文表示のため、書き換えなど事前準備に時間を要していました。今年、全要研とともに対策を検討。要請に応じて県聴障協がA1ケント紙を購入してくれました。(これでポスターの裏紙やカレンダー集めから解放されました。感謝！) より理解しやすい情報保障をとシナリオも要約。関係者の挨拶や17郡市選手団の紹介は、ホワイトボードにその場で書き、結局、前ロール用紙を40頁弱に半減。ホワイトボードの書き方、掲示の仕方みんなでも検討しました。今回の情報保障への評価は?!今後も改善していきましょう。障スポは経験の浅い会員にとってもいい学習の場です。ぜひご参加ください。(小寺淑子)

卓球



(5月28日 県身体障害者福祉センター体育室 3名参加)

爽やかな五月晴れの日に卓球大会が開催されました。今年、前ロールをワードで作成し、切り貼りしたものに変更しました。前準備が大変でしたが、見やすいものになったのではないかと思います。リアルで対応する場面で手間取ったのが今後の課題です。選手の皆さんが徐々に調子をあげて白熱した試合になり、応援する私たちも力が入りました。障スポにボランティアとして参加すると要約筆者としての1年がまた始まったなあと思います。(濱田桂子)



陸上



(5月21日 大銀ドーム 4名参加)

大会役員(車いすの方) / ここ、通れないよ。

どうしてバーがあるの。

係員 / あ〜、こうするように言われています。

役員 / 他の人はバーをまたいだりしている。

車いすの方はフィールドを通るの?

係員 / 上司に聞いたら、表彰のときに部外者が通らないようにしているそうです。

そこは、表彰者が台に行くときだけでなく、人が移動する通路にもなっています。

その後、一部のコーンバーが開きました。

コーンバーは進入禁止のバリケードになりますが、すべての人が利用できる誘導の使い方もあるのではないかと思った表彰担当の一コマでした。(池邊恵子)



フライングディスク



(5月21日 だいぎんグラウンド 6名参加)

「雨の障スポ」のイメージを払拭する素晴らしいお天気の中で開会式がスタート。

フライングディスク会場では、時折追い風、逆風が無い、選手たちには暑さとともに厳しい条件の中の競技でしたが、1センチを争う、また一投にかける思いが掲示板の結果を見る選手たちの顔からうかがいしれました。

久しぶりの参加で、周りの方々の要約筆記に対する認知度の上昇を感じました。

今後の要約筆記の対応手段については継続課題となりますが、現場での表示の必要性和「要約筆記」の周知という点で現状の対応は継続してもよいのではと思いました。

(三重野真由美)



春の交流会

2017年3月18日、難聴者協会と夢サラダの方をお招きして、春の交流会が開催されました。

判じ絵クイズで頭を柔らかくした後は、チーム対抗のピンゴゲームが行われ、どの位置にどの単語を配置するか、真剣に話し合う姿が見られました。



ゲームを楽しんだ後は、テーブルをくっつけて、会話を楽しみながらのお弁当タイム。

皆さんの笑顔がとても印象的なひとときでした。帰り際に、「来てよかった。楽しかった」と話してくださる方もいて、とても嬉しかったです。

陽ざしの会では、このような交流会を今後も企画しています。皆様のご参加をお待ちしております。

(南波 史恵)

要約筆記派遣コーディネーター担当変更

4月から聴覚障害者協会の担当者が変更になりました。
みなさん、よろしくお願いいたします。



要約筆記派遣 (公的・主催)

登録要約筆記者研修会

要約筆記者養成講座

新規

松崎さん

継続

岩田さん

その他の担当

手話派遣

大分市・主催者派遣

大分市以外

盲ろう者派遣

松崎さん

本多さん

小翠さん

編集後記

雨が降らない梅雨というのは、車いすユーザーにとっては大変ありがたいのですが、農家さんは大変ですね。

先日、ある施設の入りの長スロープに、念願の屋根がついていました。喜び勇んで近づいたのも束の間、隣接する駐車枠に屋根はなく、屋根を支える柱に駐車スペースが圧迫される、という非常に惜しい状態。軽自動車で、ドアを全開にするのがギリギリなので、普通車では難しそう。雨の日はやっぱり来られないかな、と感じながらその場を後にしました。

83号もおかげさまで無事に完成できました。皆さん、ご協力ありがとうございました。

(南波 史恵)